

# 中国における農村資源の持続可能な観光開発による地域活性化に関する考察 —遼寧省における都市近郊農村及び中山間地域農村の意識調査を通じて—

劉 蘭 芳（東洋大学大学院）

## 1. はじめに

近年、中国は目覚ましい経済成長の一方で、農村部の社会・経済の衰退や環境破壊と格差拡大などの問題が顕在化している。しかし、中国の農村は豊かな自然、伝統・文化、農業技術、景観などの資源に恵まれている。これらの多くは長い歴史を経て、住民の日常生活や経済活動によって構築されてきたもので、中国固有の資源として高い経済的価値を有している。先進諸国ではこうした農村資源を観光開発などの地域活性化に活用するなど国民に広く利用されている。一方、中国では農村地域の潜在資源を地域の活性化などのために開発し有効利用する方策は未だ取られていない。しかし、近い将来、中国においても都市住民が豊かになるにつれ、農村の自然、伝統・文化、伝統的な食文化などに注目が集まるようになると想定される。本研究は将来の農村地域の開発と都市住民の農村資源に対する価値の評価を展望し、農村に潜在するさまざまな自然や人的資源を利用し、観光資源を開発する可能性について分析する。

本稿では、特に、都市近郊農村地域（以下、都市近郊）と中山間農村地域（以下、中山間地域）に潜在する農村の観光資源を明らかにし、そうした資源を活用した観光開発を中心とする地域活性化の在り方について分析する。

## 2. アンケート調査対象地域の概要

本研究における現地調査の対象地域は東北部に位置する遼寧省の都市近郊と中山間地域とし、農村の観光資源が潜在している地域を設定した。都市近郊の対象地域である甘井子区の柳樹村・劉家村・岔鞍村・棠梨村の総人口は約8,561人で戸数は約2,994戸、総面積は約63.79km<sup>2</sup>である。中山間地域の対象地域である建昌県湯土溝村の8地区の人口は約3,000人で戸数は約800戸、面積は約93km<sup>2</sup>である。

現地調査は、2011年8月10日から9月20日の約40日間にかけて、事前に準備した調査票をもとに対面法によりを実施した。調査内容は、まず基本質問項目として、性別、年齢、職業構成等を基本質問項目として設定した（表1参考）。

さらに、農村資源および観光開発を含む質問事項として、①農村資源の種類、②農村地域の変貌とその背景と理由、③農村地域に関する理解と地域活性化のための政策、④観光資源に対する関心・魅力の把握、および⑤農村資源を利・活用した観光開発と農村経済への影響、⑥中山間地域における観光開発の可能性の6項目を設定した。

アンケート調査は都市近郊で97戸回収率32%、中山間地域で140戸回収率47%、両地域合計237戸回収率79%を対象に実施した。

キーワード：

中国、農村資源、持続可能、観光開発、地域活性化

表1 調査対象地域の基本データ

基本データ	都市近郊地域	中山間地域
調査地区と調査対象数	甘井子区の柳樹村・劉家村・岔鞍村・棠梨村の4地区97戸	汤(湯)土溝村の8地区の140戸
調査対象地域の基本データ		
性別	男性63.9%、女性36.1%	男性87.9%、女性11.4%
年齢	19～49歳に集中している。	30～69歳に集中している。
家族構成	三人家族、独身、二世帯同居、三世帯同居	二人家族、二世帯同居、三世帯同居、三人家族
職業構成	退職者21%、会社員19%、職人13%	農業74%
教育レベル	大学以上49%、大学専門31%、中等高校及び高校19%	中等高校及び高校25%、中学及び以下26%、その他は48%

### 3. アンケート調査結果の分析と考察

前述したアンケート調査6項目に関する調査結果をもとに分析と考察を行った。以下、その主な内容について言及する。なお、各項目における質問は複数回答で実施した。

#### (1) 農村資源の種類

図1は農村資源の種類を示している。中山間地域の農村資源として、「自然景観」と答えた住民は97%、「重要な生物多様性」が3%を占めた。一方、都市近郊では「自然景観」、「温泉資源」、「農村の景観」、「特産品」など多様な資源に関心が分散した。この背景には中山間地域の住民が農村資源を「日常的に存在しているもの」として認識していないことが指摘できる。言い換えれば、中山間地域ではこうした資源が日常の生活や営農活動に内部化されているといえる。また、都市近郊では農

村資源に対して多様な価値を見出していることがわかる。

#### (2) 農村地域の変貌の背景と理由

中国の農村地域は昔に比べて農村・農業の状況が大きく変貌した。今後の経済発展に伴い、農村地域の変化は加速していくと

図2に農村地域が変貌した理由を示す。都市近郊では理由として、「高齢化・農業の縮小」、「生態系やエコシステムの破壊」、「農村景観の悪化」、「若者の流出」が、それぞれ32%、30%、21%、11%を占めている。一方、中山間地域では「若者の流出」が33%、「都市との格差」が31%、「高齢化・農業の縮小」が26%、「農村地域の重要性に対する認知の低下」が8%となっている。

この結果によると、両地域とも農村人口の高齢化とそれに伴う農業の衰退や若者の都市への流出が高い関心事項となっている。これは中国を問わ

図1 中山間地域・都市近郊の農村資源の種類

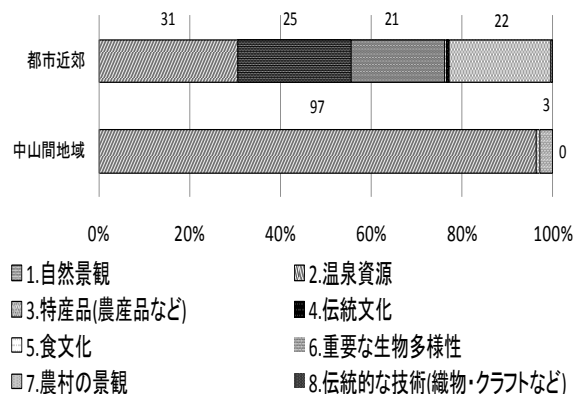
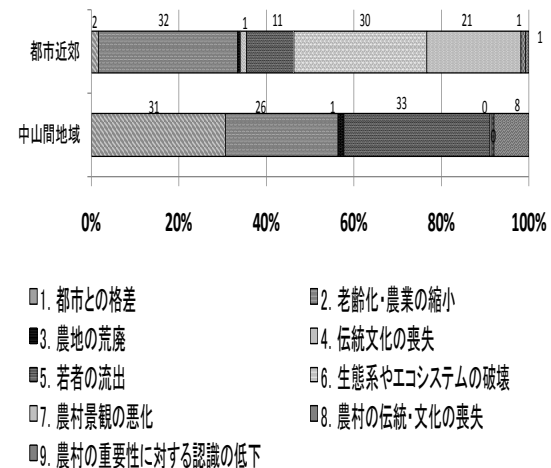


図2 農村地域が変貌した理由



ず多くの先進諸国でも同様なことが指摘される。中山間地域では格差の拡大、都市近郊では生態系やエコシステムの喪失が指摘されている点でも日本を含む多くの国と共通している。

特に、都市と農村の格差（図3参照）の理由として、都市近郊と中山間地域において「農業の低収入」がそれぞれ15%、26%、「若者の農業離れ」については両地域がそれぞれ33%、23%、一方「都市（市街地）の優先開発」はそれぞれ3%、25%で両地域の住民の優先開発に対する認識の違いが明確になっている。また、中山間地域では「農外収入で生活する以外ない」が19%を占め、中山間地域における農業の停滞と地域における少ない雇用機会による若者の都市への流出が農業離れの一つの要因となっている。

### (3) 農村地域に関する理解と地域活性化のための政策

農村の現状をどう理解しているか、という質問に対して、都市近郊と中山間地域は「農村と都市のバランスある開発が必要である」との答がそれぞれ25%と29%を占めた。両地域の住民は経済が著しく発展する一方で、農村と都市のバランスある開発を求めていることがわかる。

図3 都市との格差の理由

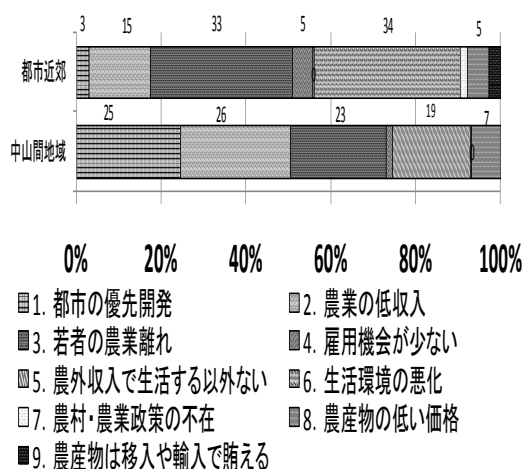
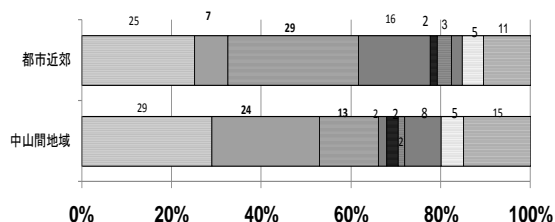


図4 農村と都市のバランスある観光開発に必要な政策

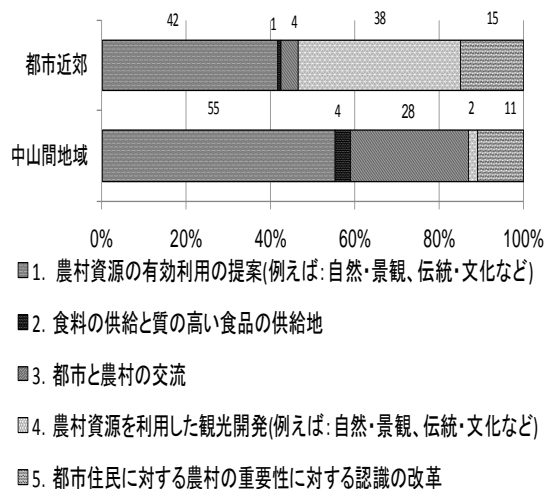


- 1. 農村活性化のための政策の適用
- 2. 農村の生活環境の改善、農業の後継者育成
- 3. 農村資源の有効活用
- 4. 若い人材に対する起業家精神の育成
- 5. 農民をはじめ農村・農業に対する理解
- 6. 政府と住民による活性化に向けた取り組み
- 7. 都市住民の農村・農業に対する理解
- 8. 食料供給地としての地位の確保
- 9. 都市住民と農村住民の交流

また、農村と都市のバランスある開発の手段の一つとして、観光開発（図4参照）について聞いたところ、「農村活性化のための政策の適用」が都市近郊と中山間地域でそれぞれ25%、29%を占めた。しかし、「農村資源の有効活用」に対する回答は都市近郊が29%であるのに対して、中山間地域13%にとどまり、未だ中山間地域の住民は自分たちの地域の農村資源の有効活用について認識が低いことがわかる。さらに、都市近郊は「若い人材に対する起業家精神の育成」が16%を占め、中山間地域がわずか2%に過ぎない。これは中山間地域の住民に農業の活性化や観光開発など他の経済活動に移行する意思が芽生えていない状況を示している。

一方で、「農村の生活環境の改善、農業後継者育成」についてはそれぞれ7%、24%、「都市住民と農村住民の交流」に対する回答はそれぞれ11%、15%で、いずれも中山間地域の方が都市近郊より高い。中山間地域が農業の存続に対する危機感やその打開策を求めていることの一つの現れでもある。

図5 地域活性化の政策手段の提案



農村地域活性化の政策手段の提案（図5参照）に関する質問に対して、都市近郊では「農村資源の有効利用の提案」42%、「農村資源を利用した観光開発」38%、「都市住民に対する農村の重要性に対する認識の改革」15%となっている。中山間地域では「農村資源の有効利用の提案」55%、「都市と農村の交流促進」28%、「都市住民に対する農村の重要性に対する認識の改革」11%の順である。

具体的な活性化のための政策手段に関して、中山間地域も地域資源の有効活用のための政策手段への関心が高いことがわかる。これは都市近郊の住民にとっても同様な結果が得られた。また、中山間地域の住民と都市近郊の住民に農業に対する認識を深めてもらいたい意思を示しており、中山間地域の活性化と併せて検討すべき問題といえよう。

#### (4) 観光資源に対する関心・魅力の把握

農村の観光的な魅力（図6参照）に関して、「自然と触れ合って、ゆっくり過ごすこと」と答えた住民は都市近郊で22%、中山間地域で9%、都市近郊の住民の回答率が2倍以上となっている。「温泉等でリラックスすること」に対する回答も都市近郊18%が中山間地域の1%より18倍以上になっ

ている。しかし、「農民・農村の伝統文化を知っていること」と「お祭りや行事に参加すること」に関して、都市近郊の住民があまり関心を示す結果となっていない。これは都市近郊の住民が近代的な生活への関心が高く、現段階では農村の伝統文化に関心を示す状況にないことを物語っているとも言える。

さらに、「山歩きをすること」は両地域でほぼ同じ、「自然を散策すること」は、それぞれ37%、34%を占めた。また、「特産品を購入すること」については、逆に中山間地域の方が高い関心を示した。両地域とも自然に親しむことでは大好きな違いが見られない。

図6 観光資源に対する関心・魅力の把握

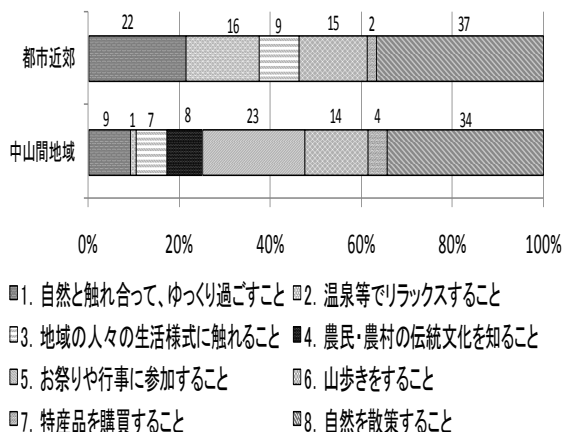
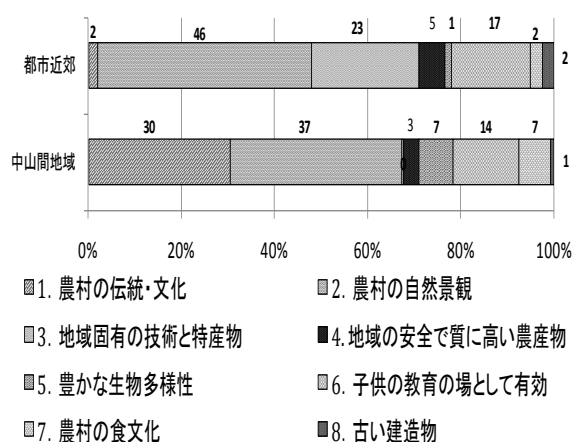


図7 農村資源を利・活用した観光開発



### (5) 農村資源を利・活用した観光開発と農村経済への影響

次に、農村資源を利・活用した観光開発を進めるために必要な手段について見る(図8参照)。まず、「都市住民を含む住民参加による農村資源の評価」に関して、都市近郊と中山間地域においてそれぞれ1%、5%と両地域とも関心が低い。しかし、「政府と住民の開発に向けた対話」の必要性についてはそれぞれ1%、27%で、中山間地域の住民は観光開発に関する住民の理解を得るための対話の必要性を重視していることが伺える。また、「都市住民の農村・農業に対する認識向上」についても中山間地域が12%を占めているが、都市近郊の住民の関心は低い。この背景には、中山間地域においては未だに政府依存の傾向が強く、都市近郊の住民は観光開発に関して、農村の自然資源に高い関心を示していても農村・農業に対する認識の向上には結びついていないことが指摘された。

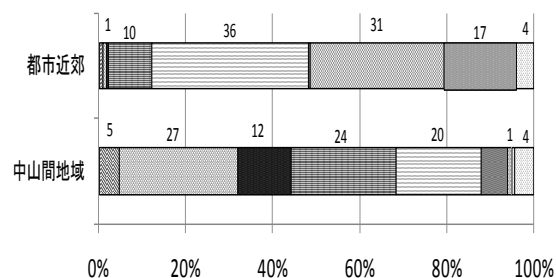
一方、「農村のインフラ整備(道路、衛生など)」の必要性については、それぞれ36%、20%で関心が高く、特に、中山間地域では「宿泊施設の整備」の必要性を強く感じている。これは都市近郊と中山間地域におけるインフラ整備の格差を考慮すれば当然のことといえよう。

さらに、都市近郊の住民は「関係者の観光サービスに関する訓練と教育」について31%、「農村住民に対する起業家精神に関する教育」に関して17%がその必要性を感じているが、逆に中山間地域では関心が低い。中山間地域の住民は農業のみに従事してきており、地域資源をどのように活用すれば観光資源として使えるのについて知識を有していない。これに対し都市近郊は雇用機会やビジネスチャンスが身近に存在していることから、起業家精神や観光サービスに関する教育の必要性を感じていると言ってよい。

農村地域が有する資源を利・活用した観光開発の方法(図9参照)については、中山間地域では「政府主導型開発」が99%を占め、都市近郊は「都

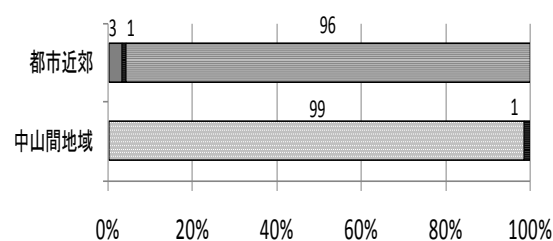
市と農村住民参加型開発」が96%を占めている。この結果も上述したように中山間地域では政府への依存度が強いことが理解できる。

図8 農村資源を利・活用した観光開発の必要な手段



- 1. 住民参加(都市住民を含めた)による農村資源の評価
- 2. 政府と住民の開発に向けた対話
- 3. 都市住民の農村・農業に対する認識向上
- 4. 先進国の事例(例えば:ヨーロッパ諸国)を学ぶべき
- 5. 農村のインフラ整備(道路、衛生など)
- 6. 宿泊施設の整備
- 7. 関係者の観光サービスに関する訓練、教育
- 8. 農村住民に対する起業家精神に関する教育
- 9. 農業をしっかり守り生活基盤とすること

図9 農村地域が有する資源を利・活用した観光開発の方法

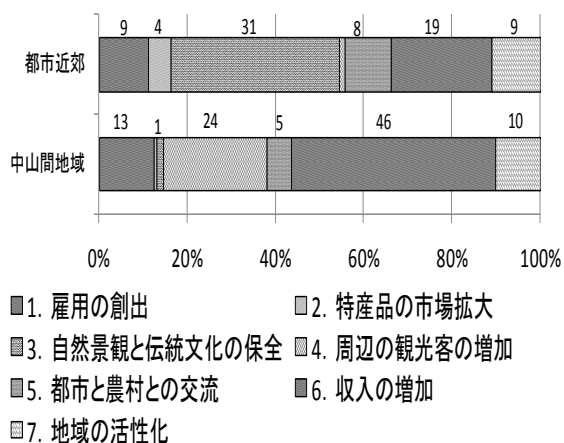


- 1. 政府主導型開発
- 2. 民間企業主導型開発
- 3. 農村地域住民主導型開発
- 4. 都市と農村住民参加型開発

また、農村観光による農村経済への影響(図10参照)については、「雇用の創出」が都市近郊で9%、中山間地域で13%とほぼ一致しており、「自然景観と伝統文化の保全」に関してはそれぞれ31%、1%で、都市近郊は農村地域の観光開発のためには自然景観と伝統文化の保全が必要であると考えていることが伺える。「周辺の観光客の増加」は都市

近郊と中山間地域でそれぞれ1%、24%で、この結果からみると、観光開発が進んでいる都市近郊は観光客の増加について期待感が薄いことがわかる。さらに、「収入の増加」については都市近郊と中山間地域でそれぞれ19%、46%を占め、中山間地域の住民が観光開発により収入の増加を期待していることを示している。

図10 農村観光による農村経済への影響



上記の調査結果を踏まえて、中山間地域は自然景観、伝統・文化、生物多様性などに恵まれている。こうした中山間地域の資源を利・活用して雇用と所得の確保を図り、都市住民が週末や休暇を農村で過ごし、また、農村集落に定住する社会を構築することを目指す必要がある。そのための開発の一つとして農村の地域資源を利・活用した観光開発を進め、都市と農村の交流を促進し、農村資源に新たな価値を創出することが必要である。

まず、農村の現状をみると、高齢化、若者の流出や出稼ぎ、農地の荒廃、低い雇用機会、農業の低収入、農業、農村資源（例えば、自然景観、伝統・文化特産物など）に対する認識の低下などの問題が存在する。特に、こうした問題は中山間地域で顕著である。

一方、中山間地域には上述した貴重な農村資源が存在し、それらを利・活用し地域を活性化するために新たな事業（例えば：食品事業、観光開発

などの事業等）に挑戦することが求められる。また、農村資源の有効な活用は雇用機会の創出、所得の向上に貢献し、農村の地域住民の連携の強化にも貢献する。農村観光開発は地域資源を有効に活用できる新たなビジネスとして期待できる。すなわち地域固有の資源をいかに新たな市場開発に結び付けることができるかである。そのためには市場における差別化と棲み分け（例えば、ニッチ市場の形成）を促進することが重要である。例えば、自然資源、景観、伝統文化、地域特産物、伝統的な技術などの資源をうまく組み合わせることで付加価値の向上を図ることである。また、需要側の都市住民の関心や嗜好に応じて観光に“体験”や“学び”などの学習の要素を取組んでいくことも必要となる。

#### 4. まとめ

本稿では、農村資源の持続可能な観光開発の可能性について、都市近郊と中山間地域における調査対象地域のアンケート調査を実施し、得られたデータを6項目について統計処理を行った。以下に各項目において得られた分析結果を基に農村資源の持続可能な保存と利・活用と観光開発の可能性について総括する。

(1) 中国の農村地域は豊かな地域資源に恵まれているが、中山間地域ではそうした資源に対する認識は低い状況にある。中山間地域の住民にとって自然資源、景観、伝統文化などは日常生活や活動の中に組み入れられおり、その希少性や価値を認識するまでに至っていない。

(2) 経済発展に伴い、都市近郊と中山間地域の経済的な格差が拡大しつつある。特に、中山間地域では、若者の都市への流出、少ない雇用機会、農業の衰退などが進行しつつあり、両地域のバランスある開発が必要である。そのためには、いかに地域資源を活性化のために有効に利・活用できるか、という点にかかっていると看做しても過言で

ない。

(3) 農村の活性化政策に関しては、両地域とも政策の必要性について認めているものの、中山間地域では農村資源の有効な活用やそのための起業家精神の育成に関しては関心が都市近郊に比べて低い。中山間地域における農村資源を活用した市場開発が進んでいないことが、その背景にある。逆に農村地域の生活環境の改善や農業後継者の育成に関心が高いのは当然ともいえる。

(4) 農村資源に関する関心や魅力については、自然に触れ合うこと、リラックスできることなど両地域で共通の関心となっているが、都市近郊では農村の伝統文化に興味を示していない。その背景には、住民が経済発展に進む中で新たな社会的な価値を見つけていることにあると考えられる。

(5) 農村資源を利・活用した観光開発の可能性については、中山間地域においては、景観などの自然資源、農村の伝統文化、食文化などを観光に活用したい意向が強く、これに対して都市近郊では自然資源を観光開発に結び付ける考えが強い。これは上記の都市住民が伝統文化に興味を示していない点と一致している。

一方、中山間地域は自らの農村資源を観光開発に結び付けるのに政府の支援を必要としている。

これには起業家精神の欠如などが原因にある。一方、都市近郊は民間主導による観光開発を選好しており、市場志向型と言える。

さらに、観光開発の経済面における影響に関しては、当然のことながら雇用の促進や収入の増加については両地域とも関心が高い。特に、中山間地域では観光開発による観光客の増加に期待する意見が強い。

(6) 最後に、中山間地域における観光開発の可能性について、まず農村資源の価値を認識し、それをいかに観光開発に結び付けるかについて分析することが必要である。特に、需要する都市住民が農村資源にどのような関心を有しているか、について把握が必要であり、その結果により差別化された市場形成に挑戦すべきである。

以上のことから、農村資源を利・活用した観光開発は、特に中山間地域にとって新たな雇用の創出や所得の向上などの手段として有効であると言える。その実現に向けて地域住民の指導性の発揮と適切な政府の関与、例えば観光開発のスタートアップ時における資金貸与などの支援が求められる。農村の観光開発は両地域にとって収入の増加、雇用の創出、地域の活性化など経済の活性化に貢献すると考えられる。